



平成 29 年 1 月 31 日

各 位

本 社 所 在 地 東京都港区赤坂五丁目 2 番 20 号  
会 社 名 株式会社アエリア  
代表者の役職名 代表取締役社長 小林 祐介  
(コード番号：3758)  
問 合 せ 先 取締役 管理本部長 清水 明  
電 話 番 号 03-3587-9574  
(URL <http://www.aeria.jp/>)

## 連結子会社株式の減損処理及びのれんの一時償却、 その他特別損失の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 2 月 15 日に公表しました平成 28 年 12 月期（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）の通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 28 年 12 月期におきまして、当社が保有する連結子会社株式の減損処理（個別決算）及び、のれんの一時償却（連結決算）を行い、これに伴う特別損失を計上する見通しとなりましたので、併せてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結子会社株式の減損処理（個別決算）

前連結会計年度より連絡子会社となりました株式会社アスガルド、株式会社リベル・エンタテインメント、株式会社 GESI において、各社の事業計画に対する進捗状況や今後の業績見通しを踏まえて検討した結果、平成 28 年 12 月期の個別決算において減損処理を行い、関係会社株式評価損として 1,769 百万円を特別損失に計上する見込みとなりました。

#### 2. のれんの一時償却（連結決算）

個別決算において、上記の評価損を計上したことに伴い、連結決算において株式会社アスガルド、株式会社リベル・エンタテインメント、株式会社 GESI に係るのれんの一時償却額 1,469 百万円を販売費及び一般管理費に、223 百万円を減損損失として特別損失に計上する見込みとなりました。

なお、上記処理により、平成 29 年 12 月期ののれんの償却額は 470 百万円から 130 百万円に縮小する見込みとなります。

#### 3. ソフトウェアの減損損失（連結決算）

連結子会社は、スマートフォン・タブレット向けゲームの配信を行っておりますが、当初予定していた収益を見込めなくなった一部タイトルについて、回収可能性を考慮し減損損失を認識しており、その固定資産簿価を回収できないと判断したものについては減損損失としております。

この結果、連結決算において 155 百万円を減損損失として特別損失に計上する見込みとなりました。

#### 4. 業績予想の修正

(1) 平成 28 年 12 月期通期連結業績予想 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

|                               | 売上高   | 営業利益   | 経常利益   | 親会社株主に<br>帰属する<br>当期純利益 | 1 株当たり<br>当期純利益 |
|-------------------------------|-------|--------|--------|-------------------------|-----------------|
| 前回発表予想 (A)                    | 6,000 | 300    | 400    | 200                     | 31.91 円         |
| 今回修正予想 (B)                    | 5,908 | △1,675 | △1,501 | △2,105                  | △280.57 円       |
| 増減額 (B - A)                   | △92   | △1,975 | △1,901 | △2,305                  | —               |
| 増減率 (%)                       | —     | —      | —      | —                       | —               |
| (ご参考) 前期実績<br>(平成 27 年 12 月期) | 4,187 | △612   | △388   | △778                    | △124.27 円       |

#### (2) 修正の理由

通期連結業績予想につきまして、売上高はコンテンツ事業において当初予定していたサービスの開始が遅れたことにより想定を下回る見込みとなりました。営業利益・経常利益は、前述ののれん  
の一時償却及び、コンテンツ事業における新規タイトルの売上や利益が想定を下回り、開発費・広  
告宣伝費等の積極的な先行投資により営業費用が嵩んだため、予想を大幅に下回る見込みとなりま  
した。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は、前述の特別損失の計上により、前回予想を大幅に下  
回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さま  
ざまな要因によって異なる結果となる場合があります。

以上